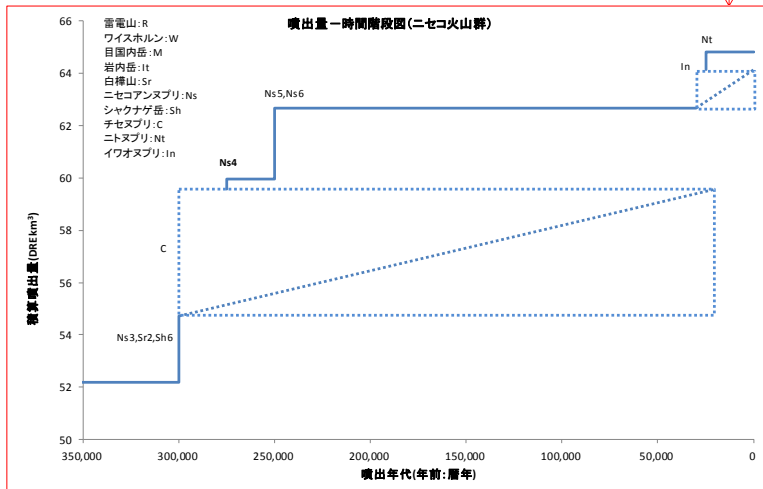
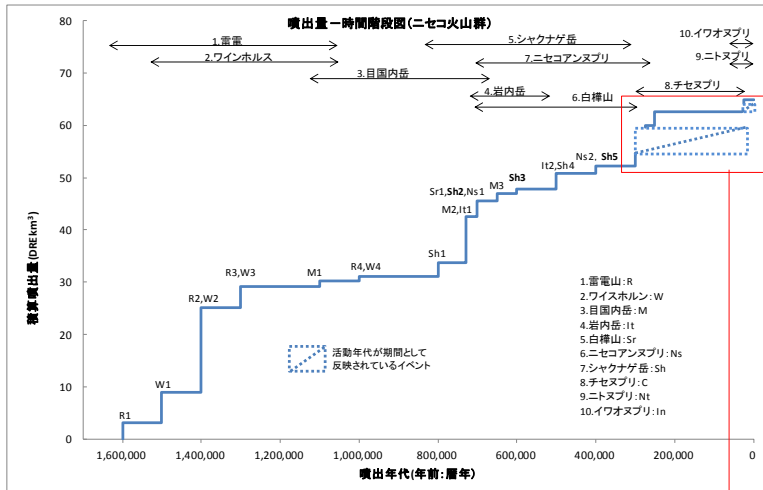


9. ニセコ火山群



9ニセコ火山群

噴出物	年代 (年前:暦年)	噴出量 (DER: km ³)
(噴気活動)	0	—
イワオヌプリ	第6期噴出物	6880
	第5期噴出物	不明
	第4期噴出物	不明
	第3期噴出物	不明
	第2期噴出物	不明
	第1期噴出物	30,000
ニトヌプリ	火山噴出物	25,000
チセヌプリ	第7期噴出物	不明
	第6期噴出物	20,000
	第5期噴出物	不明
	第4期噴出物	不明
	第3期噴出物	不明
	第2期噴出物	不明
	第1期噴出物	300,000
ニセコアンヌプリ	第6期噴出物	250,000
	第5期噴出物	250,000
	第4期噴出物	275,000※
	第3期噴出物	300,000
	第2期噴出物	400,000
	第1期噴出物	700,000
白樺山	第2期噴出物	300,000
	第1期噴出物	700,000
シヤクナゲ岳	第6期噴出物	300,000
	第5期噴出物	400,000※
	第4期噴出物	500,000
	第3期噴出物	600,000※
	第2期噴出物	700,000※
	第1期噴出物	800,000
岩内岳	第2期噴出物	500,000
	第1期噴出物	730,000
目国内岳	第3期噴出物	650,000
	第2期噴出物	730,000
	第1期噴出物	1,100,000
ワインホルズ	第4期噴出物	1,000,000
	第3期噴出物	1,300,000
	第2期噴出物	1,400,000
	第1期噴出物	1,500,000
白樺山	第4期噴出物	1,000,000
	第3期噴出物	1,300,000
	第2期噴出物	1,400,000
	第1期噴出物	1,600,000

※: 時間間隔を均等分配して年代を推定
—: 水蒸気爆発、泥流

第9-1図 噴出量-時間階段図(ニセコ火山群)

第9-1表 データセット (ニセコ火山群)

ニセコ火山群

名称 ^{注1)}	年代				噴出量							
	種類	年代値	文脈	信頼度	年代(名前, 番号) ^{注2)}	採用年代値 ^{注3)}	体積(km ³)	種類	信頼度	体積(DRE) ^{注4)}	採用噴出量 (DRE km ³)	積算噴出量 (DRE km ³)
(噴気活動) 水蒸気噴火	6030±80yBP	¹⁴ C年代	△	6676-7030yBP ^{注5)}	—	—	—	—	—	—	—	※7
第6期噴出物	溶岩ドーム	不明	—	—	—	—	0.22 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.22	1.48	※7
第5期噴出物	溶岩ドーム	不明	—	—	—	—	0.02 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.02		
第4期噴出物	溶岩流	不明	—	—	—	—	0.24 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.24		
第3期噴出物	溶岩流	不明	—	—	—	—	0.4 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.4		
第2期噴出物	火砕流	不明	—	—	—	—	0.2 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.2		
第1期噴出物	溶岩流 火砕流	0.03Ma	K-Ar年代 層序, 古地磁気	◎	0.03Ma	30,000	0.4 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.4		
ニドスアツリ 火山噴出物	溶岩流 溶岩ドーム	0.025~0.02Ma	¹⁴ C年代, K-Ar年代, 古地磁気測定	◎	0.025~0.02Ma	25,000	0.68 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.68	0.68	※7
第7期噴出物	泥流	0.02Ma	層序, 古地磁気	▲	0.02Ma	20,000	0.24 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.24	1.74	※7
第6期噴出物	溶岩ドーム	不明	—	—	—	—	0.24 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.24		
第5期噴出物	溶岩流	不明	—	—	—	—	0.5 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.5		
第4期噴出物	溶岩流	不明	—	—	—	—	0.9 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.9		
第3期噴出物	泥流	不明	—	—	—	—	(1.1 ^{※4)})	分布量と層厚から算出	○	(1.1)		
第2期噴出物	溶岩流	不明	—	—	—	—	0.9 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.9		
第1期噴出物	溶岩流	0.3±0.2Ma	K-Ar年代	◎	0.3±0.2Ma	300,000	1.2 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.2	—	—
第6期噴出物	溶岩流	0.25±0.13Ma	K-Ar年代	◎	0.25±0.13Ma	250,000	1.5 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.5	1.5	※7
第5期噴出物	溶岩流	<0.2Ma	層序, 古地磁気	▲	<0.2Ma	250,000	1.2 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.2	1.2	※7
第4期噴出物	溶岩流	不明	—	×	[275,000; 時間間隔を均等分配]	275,000	0.4 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.4	0.4	※7
第3期噴出物	溶岩流, 火砕流	<0.3Ma	層序, 古地磁気	▲	<0.3Ma	300,000	1.7 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.7	1.7	※7
第2期噴出物	溶岩流, 火砕流	0.4±0.2Ma	K-Ar年代	◎	0.4±0.2Ma	400,000	0.7 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.7	0.7	※7
第1期噴出物	溶岩流, 火砕流	0.69±0.35Ma	K-Ar年代	◎	0.69±0.35Ma	700,000	2.1 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	2.1	2.1	※7
第2期噴出物	溶岩ドーム	0.8±0.3Ma	K-Ar年代	◎	0.8±0.3Ma	300,000	0.8 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.8	0.8	※7
第1期噴出物	溶岩流, 火砕流	0.68±0.04Ma	K-Ar年代	◎	0.68±0.04Ma	700,000	0.2 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.2	0.2	※7
第6期噴出物	溶岩ドーム	0.3±0.03	K-Ar年代	◎	0.3±0.03	300,000	0.02 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.02	0.02	※7
第5期噴出物	溶岩ドーム	不明	—	×	[400,000; 時間間隔を均等分配]	400,000	0.7 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.7	0.7	※7
第4期噴出物	溶岩流	0.5±0.3Ma	K-Ar年代	◎	0.5±0.3Ma	500,000	0.8 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.8	0.8	※7
第3期噴出物	溶岩流, 火砕流	不明	—	×	[600,000; 時間間隔を均等分配]	600,000	1 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1	1	※7
第2期噴出物	溶岩流, 火砕流	不明	—	×	[700,000; 時間間隔を均等分配]	700,000	0.6 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.6	0.6	※7
第1期噴出物	軽石流	0.8±0.05Ma	K-Ar年代	◎	0.8±0.05Ma	800,000	2.6 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	2.6	2.6	※7
第2期噴出物	溶岩流	0.9±0.2, 0.9±0.3Ma 0.8±0.2, 0.8±0.4Ma 0.5Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	0.9±0.2, 0.9±0.3Ma 0.8±0.2, 0.8±0.4Ma 0.5Ma	500,000	2.1 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	2.1	2.1	※7
第1期噴出物	溶岩流, 火砕流	0.9±0.3Ma 0.73Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	0.9±0.3Ma 0.73Ma	730,000	1.8 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.8	1.8	※7
第3期噴出物	溶岩ドーム	0.8±0.4, 0.8±0.3Ma 0.73±0.05Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	0.8±0.4, 0.8±0.3Ma 0.73±0.05Ma	650,000	1.4 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.4	1.4	※7
第2期噴出物	溶岩流, 火砕流	1.2±0.2, 1.1±0.2Ma 1.0~0.73Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.2±0.2, 1.1±0.2Ma 1.0~0.73Ma	730,000	7.1 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	7.1	7.1	※7
第1期噴出物	火砕流	1.1Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.1Ma	1,100,000	1.1 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.1	1.1	※7
第4期噴出物	火山角礫岩	1.0Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.0Ma	1,000,000	0.2 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.2	0.2	※7
第3期噴出物	溶岩流	1.3±0.2Ma 1.4~1.0Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.3±0.2Ma 1.4~1.0Ma	1,300,000	1.1 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	1.1	1.1	※7
第2期噴出物	火山角礫岩	1.4±0.4Ma 1.4~1.0Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.4±0.4Ma 1.4~1.0Ma	1,400,000	0.4 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.4	0.4	※7
第1期噴出物	火砕流, 溶岩流	1.6±0.3, 1.5±0.1Ma 1.5~1.0Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.6±0.3, 1.5±0.1Ma 1.5~1.0Ma	1,500,000	5.7 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	5.7	5.7	※7
第4期噴出物	溶岩流, 溶岩ドーム	1.3±0.2Ma 1.3~1.0Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.3±0.2Ma 1.3~1.0Ma	1,000,000	0.6 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	0.6	0.6	※7
第3期噴出物	溶岩流	1.4±0.2, 1.3±0.3Ma 1.3~1.0Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.4±0.2, 1.3±0.3Ma 1.3~1.0Ma	1,300,000	2.9 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	2.9	2.9	※7
第2期噴出物	溶岩流, 火山角礫岩	1.4±0.2, 1.3±0.3Ma 1.4~1.1Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.4±0.2, 1.3±0.3Ma 1.4~1.1Ma	1,400,000	15.9 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	15.9	15.9	※7
第1期噴出物	溶岩流	1.5±0.2Ma 1.6~1.4Ma	K-Ar年代, 層序, 古地磁気	◎	1.5±0.2Ma 1.6~1.4Ma	1,600,000	3.2 ^{※4)}	分布量と層厚から算出	○	3.2	3.2	※7

注1) 名称については、より詳しい地名にまで付
 注2) 測定誤差の小さいものを示した。
 注3) 幅がある場合には中央値を採用した。
 ※1) 層序図等から読み取った年代
 ※2) 暦年校正したCalib7を使用した。
 ※3) 資料年代(名前, 番号)と、噴出量(体積)の一致を
 △: 層序と年代(名前, 番号)と、噴出量(体積)の一致を
 ◎: 層序と年代(名前, 番号)と、噴出量(体積)の一致を
 ▲: 層序と年代(名前, 番号)と、噴出量(体積)の一致を
 ×: 層序と年代(名前, 番号)と、噴出量(体積)の一致を
 ※4) 文脈中「CORE」で採集された試料
 ※5) 層序図等から読み取った体積
 ※6) 第四紀火山学委員会(1999)より引用
 ※7) 層序図に採集したものを層序図へ反映
 ○: 信頼度高い
 △: 信頼度低い
 ×: 文脈を基に推定した
 ※4) DRE換算は火砕流: 1.2g/cm³ [溶融: 1.6]、
 降下火砕物: 1.5g/cm³、成層火山: 1.8g/cm³、
 溶岩: 2.5g/cm³を用いた(Umeda et al. 2013)

第9-2表(1) 活動履歴帳票(ニセコ火山群)

9. ニセコ火山群		データベース(DB)等による年代・体積										
噴火史の概略		主要参考文献 日本地質学会編(2010)、大場(1960)		【年代】2.4Ma~現在(6000yBP) 【体積】53.4km ³ 引用DB 日本の火山(http://gbank.gsj.jp/volcano/) 【年代】西来ほか編(2014)、中野ほか編(2013) 【体積】第四紀火山カタログ委員会編(1999)								
活動期	細分・別称	噴出物	マグマ種類	噴火様式	年代	根拠	引用	信頼度	体積注) DRE(km ³)	根拠	引用	信頼度
ニセコ火山群 (新期火山群)	イワオスプリ 火山	(噴気活動)		氷蒸気噴火	6030±80yBP	¹⁴ C年代	*1	△	—	—	—	—
		第6期噴出物		溶岩ドーム	不明	—	—	—	0.22	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第5期噴出物		溶岩ドーム	不明	—	—	—	0.02	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第4期噴出物	安山岩~ デイサイト	溶岩流	不明	—	—	—	0.24	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第3期噴出物		溶岩流	不明	—	—	—	0.4	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物		火砕流	不明	—	—	—	0.2	分布面積と層厚から算出	*2	○
	第1期噴出物	溶岩流、火砕岩		0.03Ma	K-Ar年代、 層序、古地磁気	*2*3	◎	0.4	分布面積と層厚から算出	*2	○	
	ニトヌプリ 火山	ニトヌプリ火山噴出物	安山岩~ デイサイト	溶岩流、溶岩ドーム	0.025~0.02Ma	¹⁴ C、K-Ar、 古地磁気測定	*2	◎	0.68	分布面積と層厚から算出	*2	○
	ニトヌプリ 火山	第7期噴出物		泥流	0.02Ma	層序、古地磁気	*2	▲	(0.24)	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第6期噴出物		溶岩ドーム	不明	—	—	—	0.24	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第5期噴出物	玄武岩~ 安山岩	溶岩流	不明	—	—	—	0.5	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第4期噴出物		溶岩流	不明	—	—	—	0.9	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第3期噴出物		泥流	不明	—	—	—	(1.1)	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物		溶岩流	不明	—	—	—	0.9	分布面積と層厚から算出	*2	○
第1期噴出物	溶岩流	0.3±0.2Ma	K-Ar年代	*2	◎	1.2	分布面積と層厚から算出	*2	○			
ニセコ火山群 (中期火山群)	ニセコ アンスプリ 火山	第6期噴出物	安山岩	溶岩流	0.25±0.13Ma	K-Ar年代	*6	◎	1.5	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第5期噴出物	安山岩	溶岩流	<0.2Ma	層序、古地磁気	*2	▲	1.2	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第4期噴出物	安山岩	溶岩流	不明	—	—	—	0.4	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第3期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	<0.3Ma	層序、古地磁気	*2	▲	1.7	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	0.4±0.2Ma	K-Ar年代	*2	◎	0.7	分布面積と層厚から算出	*2	○
	白樺山火山	第1期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	0.69±0.35Ma 0.8±0.3Ma	K-Ar年代	*6 *2	◎	2.1	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物	安山岩	溶岩ドーム	0.5±0.3Ma 0.3±0.2Ma	K-Ar年代	*6 *2	◎	0.8	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第1期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	0.68±0.04Ma	K-Ar年代	*2	◎	0.2	分布面積と層厚から算出	*2	○
	シャクナゲ岳 火山	第6期噴出物	安山岩	溶岩ドーム	0.3±0.03Ma	K-Ar年代	*2	◎	0.02	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第5期噴出物	安山岩	溶岩ドーム	不明	—	—	—	0.7	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第4期噴出物	安山岩~ デイサイト	溶岩流	0.5±0.3Ma	K-Ar年代	*2	◎	0.8	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第3期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	不明	—	—	—	1	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	不明	—	—	—	2.6	分布面積と層厚から算出	*2	○
	第1期噴出物	安山岩	終石流	0.8±0.05Ma	K-Ar年代	*6	◎	2.6	分布面積と層厚から算出	*2	○	
雷電火山群 (古期火山群)	岩内岳火山	第2期噴出物	(玄武岩質) 安山岩	溶岩流	0.9±0.2, 0.9±0.7Ma 0.8±0.2, 0.8±0.4Ma 0.5Ma	K-Ar年代、 層序、古地磁気	*2	◎	2.1	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第1期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	0.9±0.3Ma 0.73Ma	K-Ar年代	*2	◎	1.8	分布面積と層厚から算出	*2	○
	目国内岳火山	第3期噴出物	安山岩	溶岩ドーム	0.8±0.4, 0.8±0.3Ma 0.73~0.65Ma	K-Ar年代	*2	◎	1.4	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物	安山岩	溶岩流、火砕岩	1.2±0.2, 1.1±0.2Ma 1.0~0.73Ma	K-Ar年代 層序、古地磁気	*2	◎	7.1	分布面積と層厚から算出	*2	○
ニセコ火山群 (古期火山群)	ワイズホルン 火山	第4期噴出物	安山岩	火山角礫岩	1.0Ma	K-Ar年代	*2	◎	0.2	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第3期噴出物	安山岩	溶岩流	1.3±0.2Ma 1.4~1.0Ma	K-Ar年代	*2	◎	1.1	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物	安山岩	火山角礫岩	1.4±0.4Ma 1.4~1.0Ma	K-Ar年代 層序、古地磁気	*2	◎	0.4	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第1期噴出物	安山岩	火砕岩、溶岩流	1.5±0.3, 1.5±0.1Ma 1.5~1.4Ma	K-Ar年代	*2	◎	5.7	分布面積と層厚から算出	*2	○
雷電火山群 (古期火山群)	雷電火山	第4期噴出物	安山岩	溶岩流、溶岩ドーム	1.3±0.2Ma 1.3~1.0Ma	K-Ar年代	*2	◎	0.6	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第3期噴出物	安山岩	溶岩流	1.4±0.2, 1.3±0.3Ma 1.3~1.0Ma	K-Ar年代	*2	◎	2.9	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第2期噴出物	安山岩	溶岩流、火山角礫岩	1.4±0.2, 1.3±0.3Ma 1.4~1.1Ma	K-Ar年代 層序、古地磁気	*2	◎	15.9	分布面積と層厚から算出	*2	○
		第1期噴出物	安山岩	溶岩流	1.5±0.2Ma 1.6~1.4Ma	K-Ar年代	*2	◎	3.2	分布面積と層厚から算出	*2	○

※1: 第四紀火山カタログ委員会編(1999)を引用
※2: 文献中の階段図等から読み取った値
注) DREに換算されている場合は斜体で表記した

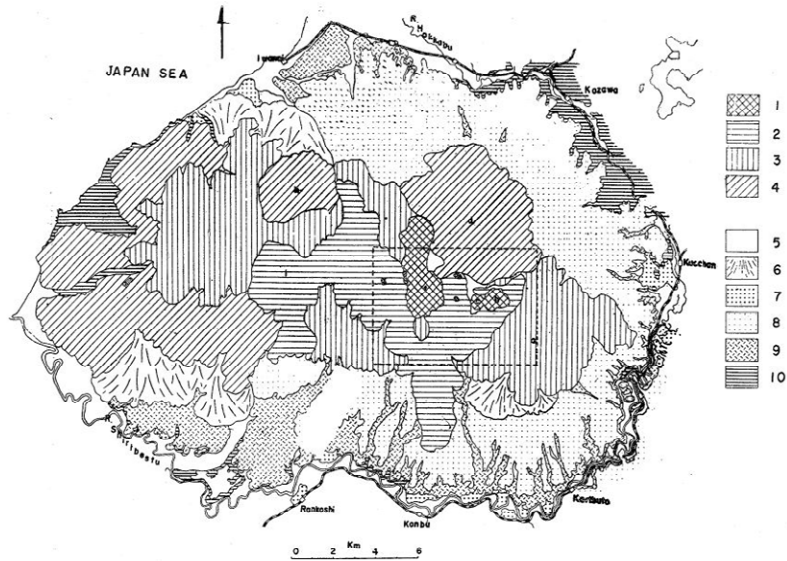
* 放射性年代、◎ 差違付論文、○ 調査報告等
△ 層序と矛盾、註記・測定に疑問、根拠未記載
▲ 堆積速度の内挿、時間間隔を均等分配、層序
● 上下層が放射性年代で規定、▲ 上下層が未規定
・古文書断片、近代観測、◎

信頼度
◎ > ○ > △

引用文献
*1: 奥野 充 (2003): ニセコ・イワオスプリ、大雪山・旭岳、屈斜路・アトサヌプリにおける最新噴火の年代学的研究。科学研究費補助金研究成果報告書、13-23p。
*2: 新エネルギー総合開発機構 (1986): 昭和60年度全国地熱資源総合調査(第2次) 火山性熱水対流系地域タイプ①(ニセコ地域)調査。火山岩分布年代調査報告書。
*3: 中川光弘、岡田 弘、勝井義雄 (2007): 多様な火山3ニセコ。北海道の活火山、120-122p。
*4: 新エネルギー総合開発機構 (1985): 昭和59年度全国地熱資源総合調査(第2次) 火山性熱水対流系地域タイプ①(ニセコ地域)調査。火山岩分布年代調査報告書。
*5: 児玉 浩、宇井忠英 (1996): イワオスプリ火山、ニトヌプリ火山、チセヌプリ火山における火山地質学的研究。日本火山学会講演予稿集、B6。
*6: 日本地質学会編 (2010): 北海道地方。日本地方地質誌1、p301-302。

第9-2表(2) 活動履歴帳票(ニセコ火山群)

9. ニセコ(・雷電)火山群



第1図 ニセコ火山群の地質図I(概要図)
 ニセコ火山群 { 1 最新期噴出物, 2 (角閃石を含む岩石種), 3 (角閃石を含まぬ岩石種), 4 旧期噴出物 }
 a ニセコアヌプリ, b 大イワオヌプリ, c 小イワオヌプリ, d ワイスホルン, e ニトヌプリ, f チセヌプリ, g シャクナゲ山, h 岩内岳, i 目国内岳, j 雷電山(中央の破線は第2図の範囲)

図 ニセコ火山群の地質図
(大場, 1960)

表 ニセコ火山群の層序及び活動年代
(新エネルギー総合開発機構, 1985)

火山名	活動年代 (Ma)
イワオヌプリ	0.01 - 0.03
ニトヌプリ	0.02 - 0.025
チセヌプリ	0.02 - 0.3
白樺山	0.3 - 0.7
シャクナゲ岳	0.2 - 0.9
ニセコアヌプリ	0.1 - 0.7
ワイスホルン	1.0 - 1.5
岩内岳	0.5 - 0.73
目国内岳	0.65 - 1.1
雷電山	1.0 - 1.6
基底噴出物	0.87 - 1.63
雷電岬火山角礫岩層	1.8 - 2.0

表 イワオヌプリ火山の放射性炭素年代 (奥野, 2003)

表1 ニセコ, イワオヌプリ火山の¹⁴C年代

試料名	C (%)	N (%)	C/N	収率* (%)	δ ¹³ C値**	¹⁴ C年代*** (BP)	測定番号 (NUTA-)
Ns-1-2	0.56	0.08	7.48	95.3	-24.52	6 030 ± 80	3624

* 収率 = 得られた炭素量 (mg) / (試料の量 (mg) × 炭素含有量 (%))

** トリプルコレクター式気体用質量分析計 (Finnigan MAT 社製 MAT-252) を用いて測定した。

*** ¹⁴Cの半減期は5570年を用いた。年代値は、西暦1950年から過去へ遡った年数で示している。

誤差は one sigma を示す。試料の δ¹³C値** を用いて炭素同位体の質量分別効果を補正した。

第9-3表 収集文献リスト（ニセコ火山群）

No	著者	発行年	題名	雑誌名	記載事項の有無										備考
					噴出量- 時間 階段図	噴出量 (体積)	方法	活動 年代	方法	層序	噴出物 分布	噴火 様式	マグマ 特性	その他	
9-a	奥野亮	2003	ニセコ・イワオヌブリ、大雪山・旭岳、屈斜路・アトサヌブリにおける最新噴火の年代学的研究	科学研究費補助金研究成果報告書	×	×	-	○	A (¹⁴ C)	○	×	×	×	-	
9-b	広川 治、村山 正郎	1955	5万分の1地質図幅「岩内」及び同説明書	5万分の1地質図幅地質調査所	×	×	-	○	D	○	○	×	○	-	
9-c	児玉浩、宇井忠英	1996	イワオヌブリ火山、ニトヌブリ火山、テセヌブリ火山における火山地質学的研究	日本火山学会講演予稿集	×	○	e	×	-	○	×	×	○	-	
9-d	新エネルギー総合開発機構	1985	昭和59年度全国地熱資源総合調査（第2次）火山性熱水対流系地域タイプ①（ニセコ地域）調査	火山岩分布年代調査報告書	×	○	a	○	A (K-Ar)	○	○	○	○	-	
9-e	新エネルギー総合開発機構	1986	昭和60年度全国地熱資源総合調査（第2次）火山性熱水対流系地域タイプ①（ニセコ地域）調査	火山岩分布年代調査報告書	×	×	-	○	A (K-Ar)	○	○	○	○	-	
9-f	大場与志男	1960	ニセコ火山群の岩石について	地質学雑誌	×	×	-	×	-	○	○	○	○	-	
9-g	Nakagawa Mitsuhiro	1992	Spatial variation in chemical composition of Pliocene and Quaternary volcanic rocks in southern Hokkaido, northeastern Japan arc	北海道大学紀要	×	×	-	○	D	×	×	×	○	-	
9-h	中川光弘、岡田弘、勝井義雄	2007	多様な火山 3. ニセコ	北海道の活火山	×	×	-	○	F	○	×	○	×	-	
9-i	日本地質学会	2010	北海道地方	日本地方地質誌1	×	×	-	○	A (¹⁴ C)	○	×	○	○	-	
9-j	第四紀火山カタログ委員会	1999	第四紀火山カタログ		×	○	e	○	D	○	○	○	○	-	

◎: 記載あり (最良)
○: 記載あり
(噴出量の対象
●: 降下火砕物
■: 溶岩流
▲: 山体一括)

a: 地質調査
b: 地質図等
c: 引用
d: その他
e: 不明

A: 放射年代
B: 層序
C: 古文書記載
D: 引用
E: その他
F: 不明